

2020.8.29

紙つぶて



運転から考える人生

水島 広子

私は車の運転が好きである。衆院議員時代には、万が一事故でも起こしたら大勢の人に迷惑をかける、という理由で運転は許されていなかった。これは案外自分を無力化することで、今は運転しては「私は自分で運転できる」という充足感を味わっている。何歳まで運転できるかは別として。

さて、車の運転には、ものすごくたくさんの方の知恵が詰まっているなと私は思う。例えば方向指示器。これをきちんと出さないと車線変更をしたら事故が起こるだろう。この「方向指示器」は、人間関係においてはコミュニケーションなのだと思ふ。「こっちに行きます」「これをやりたい」などと方向を示さないと突然衝動的に動いた

ら、周りを驚かさたらうし迷惑もかけるだろう。自己肯定感が低くて、あるいはコミュニケーションに自信がなくて自己主張できない人は少なくないが、「方向指示器を出さずにあちこち行っている」と思えば、むしろ恐ろしくないだろうか。

また、車の運転をしていると、無理をしないこと、他人と競わないことなどが命に関わってくる。これも、人生全体にあてはめられる。(体面を気にして)無理をしない、他人と競わない、ということとは、豊かで安全な人生を送っていくためにはとても大切なポイントだと思ふ。

車の運転をしながら人生の教科書になることを次々見つけていくのは楽しい作業だ。(精神科医)